

[課程－2]

審査の結果の要旨

氏名 梶 奈美子

米国では慢性疾患児の医療的、福祉行政的ニーズに幅広く対応するために、Children with Special Health Care Needs (健康関連の特別なケアニーズを必要とする子ども達、以下 CSHCN) という概念で小児慢性疾患を包括した。CSHCN とは、時代と共に変遷しやすい診断基準や疾患概念でなく、機能障害や福祉サービスの必要性の程度等、障害のもたらず結果を重視する概念であり、米国母子保健局では「CSHCN とは、身体的、発達の、行動的、感情的に慢性的な問題を抱え、一般的な子どもが要する以上の健康及び関連サービスを必要とする、もしくはそのリスクがある子どもの概念である」と定義した。

本研究は、日本において初めて一般人口での CSHCN の現状を調べ、その母親の不安・抑うつ症状との関連を調べた。また、CSHCN の質問該当個数が多いと CSHCN 自身及び養育者の困難が多岐にわたると考えられるため、CSHCN の質問該当個数と母親の不安・抑うつとの関係を検証し、さらに、CSHCN を養育することと抑うつとの関係を媒介する要因を調べることを目的とし、下記の結果を得た。

1. この研究参加児童全体の平均年齢は $9.74 \pm .43$ 歳だった。CSHCN である児童は全体の 502 人 (12.5%) に認めた。CSHCN の男女の割合は、男児では 70.5%、女児では 29.5% で、有意に男児に多かった ($p < 0.001$)。

CSHCN の各質問に当てはまる人数は、質問 1 が 291 人、質問 2 が 292 人、質問 3 が 133 人、質問 4 が 83 人、質問 5 が 157 人であった。また、CSHCN の 5 つの質問に該当するほど CSHCN 及びその養育者の困難が多岐にわたると推察されるが、質問 1 つに当てはまったのが 248 人、質問 2 つが 137 人、質問 3 つが 51 人、質問 4 つが 49 人、質問 5 つが 17 人であった。

2. CSHCN の有無による K6 の点数の違いを t 検定にて解析した結果、CSHCN 群で不安・抑うつは有意に高かった ($p < 0.001$)。不安・抑うつ症状を K6 の点数で、無症状、軽症、重症の 3 段階に分類して頻度と重症度を比較すると、CSHCN 群で有意に頻度も重症度も高かった ($p < 0.001$)。

CSHCN の質問該当個数による K6 の点数の違いを分散分析で解析した結果は、質問に多く該当するほど不安・抑うつは有意に高かった ($p < 0.001$)。不安・抑うつ症状を K6 の点数で無症状、軽症、重症の 3 段階に分類して頻度と重症度を比較すると、CSHCN の質問該当個数が多い程、有意に頻度も重症度も高かった ($p < 0.001$)。

3. CSHCN の有無と母親の不安・抑うつ症状の関連における、ソーシャルサポート、世帯年収、母親の就労状況、婚姻状況の関連を調べた線形重回帰分析では、単変量モデルにて CSHCN の有無は母親の不安・抑うつと正の関連を示した。この関連はソーシャルサポート、婚姻状況、母親の就労状況、世帯年収その他交絡要因全てで調整したモデルでも有意だった。さらに、SEM に基づくパス解析を行って、ソーシャルサポート、世帯年収、母親の就労状況、婚姻状況の媒介関係を検証したところ、ソーシャルサポートの部分媒介効果のみが有意だった。

CSHCN の質問項目該当個数と母親の不安・抑うつ症状の関連における、ソーシャルサポート、世帯年収、母親の就労状況、婚姻状況の関連を調べた線形重回帰分析でも、単変量モデルにて CSHCN の質問該当個数は母親の不安・抑うつと正の関連を示し、この関連はソーシャルサポート、婚姻状況、母親の就労状況、世帯年収及び全ての交絡要因で調整したモデルでも有意だった。さらに、SEM に基づくパス解析を行って、ソーシャルサポート、婚姻状況、母親の就労状況、世帯年収の媒介関係を検討したところ、ソーシャルサポートと世帯年収の部分媒介効果が有意だった。

以上、本研究では、初めて日本における CSHCN の有病率・特徴を調べ、非 CSHCN の母親に比べて、CSHCN を抱える母親及び CSHCN の質問該当個数が多い母親に不安・抑うつが多く、重症であることを示した。また、CSHCN の有無及び CSHCN の質問該当個数と母親の不安・抑うつとの関連における、ソーシャルサポートの有意な部分媒介効果を初めて示唆した。

CSHCN の母親には人的サポートが必要で、特に困難が多岐に渡る CSHCN の母親には重点的なサポートが必要だと考えられる。本研究では SSQ 人数も SSQ 満足度の部分媒介効果も有意であり、ソーシャルサポートの質も量も重要であることが示された。今後 CSHCN の母親にも届く人的支援の検討をするにあたり重要な結果であると考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。